

117 A 322
(117 A 22)
(74 C 211)

特 許 庁
実 用 新 案 公 報

実用新案出願公告
昭41-22884
公告 昭41.11.17
(全3頁)

パンチ兼用ホツチキス

実 願 昭 38-50470
出 願 日 昭 38. 7. 5
考 案 者 川口昇
大阪市東住吉区長吉出戸町820
出 願 人 福井工業株式会社
同所
代 表 者 福井庄次郎
代 理 人 弁理士 三枝八郎 外1名

図面の簡単な説明

図面は本考案器を示し、第1図は第2図Ⅱ-Ⅱ線欠切縦断側面図、第2図は同じく平面図、第3図は欠切正面図である。

考案の詳細な説明

本案はパンチ器、ホツチキスの各単独使用及びそれ等の同時使用の任意選択が可能で、しかもそれ等三通りの切換えを単に1つの操作片の操作のみによつて行うことができその使用取扱上の操作が極めて簡便なパンチ兼用ホツチキスの提案に係り、之を図面について説明すれば次の如くである。

枢支軸aに前端を枢支した圧腕片1は器台b上に並設した1対組のパンチ部とホツチキス部とを被覆し、その中央に透窓2を形成する。該透窓2の前側縁部にパンチと、パンチ・ホツチキス及びホツチキスの3作動位置を指す指標P、PH、Hを表示し、該圧腕片1の枢支軸aは両囲壁3、3を貫通した外端をビス4、4で囲壁3、3に締着し、該枢支軸aの両側に巻いた夫々の撥条5の両末端を圧腕片1の裏面と、囲壁3の前壁に夫々沿わせて圧腕片1後端を上方に持ち上げる。圧腕片1の前内壁と、囲壁3、3の前壁外周と係止して定角度以上圧腕片1は開かせない。

両摺動片本体6、6の突出部cに枢支軸aが摺動自在に嵌入し、両摺動片本体6、6の相互間は連結杆7にて連結1体化する。

両摺動片本体6、6の下面には凹溝dを設け、パンチ棒12及びホツチキス綴針押片15頭頂部

端には指標片9を取付け、指標片9は前記の透窓2の前側縁部に臨み指標P、PH、H間を移動し摺動片本体6、6を移動させる。

弾片10は上記の突出部cに1端を固着し、他端は囲壁3の前内壁に沿うて指標片9の定位置を枢支軸aを中心として定める。囲壁3、3一側にコ字金具11、11を定着し、パンチ棒12、12はこのコ字金具11、11の上下片を貫通し、コ字金具11、11の下方止の座金13と該パンチ棒12、12の横ピンチ14との間に介入した巻ばねsにて定高持上げをする。

ホツチキス部は上記パンチ棒12、12それぞれの同じ側の側方例えば右側方へ適当間隔を隔てて計2つを配設し、その綴針押片15を包囲函部16にて囲い、該綴針押片15には縦溝17を穿設し、この溝17内に挿嵌する包囲函部16より突設した植ピン18によつて綴針押片15の頭頂を揃える為包囲函部16より上方に突出した綴針押片15に嵌合する座金19と、上部の並列止ピン20にて止着した座金21との間に巻ばね22を介装し、綴針押片15を上方に定位置に持ち上げる。

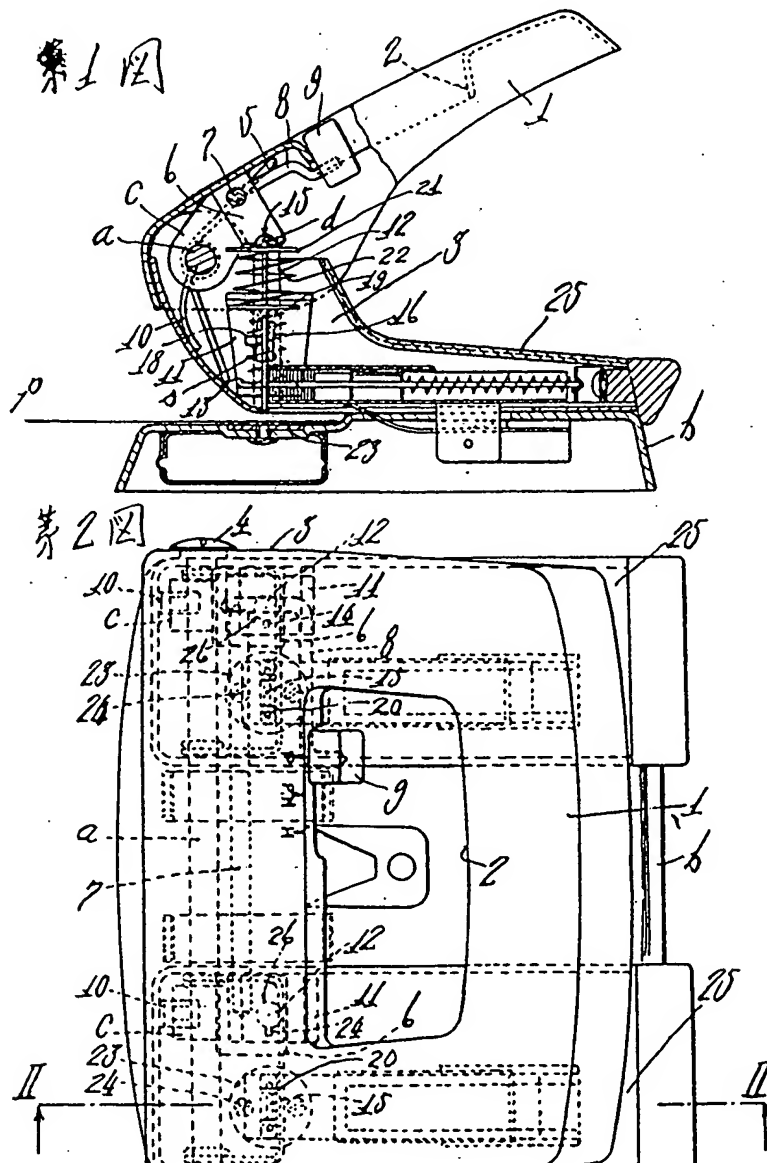
ホツチキス用の綴針受皿23は器台b上にビス24にて固定され、ホツチキス部とパンチ部とを囲繞する囲壁3の上面部を更に覆版25で被包せている。覆版25を取外してホツチキス針を装填する。パンチ用の承孔26は器台b上面に直接穿孔する。他の細部構成は、従来のものと大同小異であるから省略する。

上記構成に於て下記の三操作が行われる。パンチ単独使用の場合は、指標片9を該パンチ指標Pに移動して合わすと、連結杆7を連結した摺動片本体6、6は左右同時にパンチ棒12、12頭頂部にセットされる。ここで圧腕片1を圧下すると圧腕片1の裏面に接触している摺動片本体6、6の上側を圧下し、枢支軸aを枢軸として下降してその下面の凹溝b、bがパンチ棒12、12の頭部を押下してパンチ棒12、12の先端が挿入紙p面上に穿孔作用を行う。

パンチ・ホツチキスの穿孔及び綴りを用紙pに同時に行ふときは、指標PHに指標片9を移

BEST AVAILABLE COPY

器台上に起伏腕片を又同器台の左右両端部に計2つの穿孔棒と之等の同じ側の側方に並ぶホツチキスとをそれぞれ備えると共に、それ等穿孔棒及びホツチキスの各1対に跨る長さの圧下媒体を之等穿孔棒、ホツチキスの各組に臨むよう又指標片の操作により左右へ1体移動するようにして上記起伏腕片上に装備したことを特徴とするパンチ兼用ホツチキス。



第5図

